



3年間のWWL事業の取組みと 成果

管理機関：大阪府教育委員会

カリキュラム開発拠点校：大阪府立北野高等学校

発表者：WWL推進室主任 英語科 松山知紘

カリキュラムの研究開発・実践

■ 国際性を高める「学内留学」の実施（主に1年生）

ー大学教養レベルの内容×All English×課題研究につながる学習活動

■ 「国際情報」（1年生）の開発・実施

ー情報の内容+「研究基礎」としてのデータ解析や統計処理（数学・理科の教員とのT.T）

ー英語運用能力・プレゼンテーション力を高めるため日本語・英語両方によるディベート・プレゼンテーション（英語科の教員とのT.T）

■ テーマ（「健康・医療」「幸福」）に関連した課題研究（探究）の実施

ーWWLコース（2年生60名）が「WWLグローバル探究」（学校設定科目）において課題研究を実施（英語科・社会科・理科・体育科）

■ 留学生と日本人高校生の英語での探究活動の実施

ーAFS協会「アジア高校生架け橋プロジェクト」を通して毎年2名の受け入れ

ー「WWLグローバル探究」（英語科はネイティブ教員が担当）にて実施

カリキュラムの研究開発・実践

■ カリキュラムに位置付けられた海外研修の実施

ーWWLコース生徒は海外研修が必須

2年生夏ーハワイ・東南アジア

1年生春ーオーストラリア・台湾 への研修を計画

(代替研修) 目的:生徒たちの課題研究につなげる

令和2年度

2年生ーWWLグローバルリーダー養成英語集中講座

ー国内にいる大学／大学院に通う留学生と共にWWLテーマに関する知識を深め、自身の課題研究を進める

1年生ーWWL淡路島研修

ーWWLテーマに関するフィールドワークを行い、課題研究への知見を得る

令和3年度

2年生ークリティカルシンキングワークショップ

ークリティカルシンキングについて英語で学び、自身の探究テーマを批判的に考える

カリキュラムの研究開発・実践

■ 海外連携校とのオンライン交流実施

ー代替研修に加えて令和3年度は海外連携校（オーストラリア:Queanbeyan High School、台湾:建国高級中学）とオンライン交流を実施

時期:Queanbeyan High Schoolー7月、建国高級中学ー10月

対象生徒:WWLグローバル探究 英語グループ 13名

内容:7月ー目的:研究テーマの設定やテーマの絞り込み

・日常生活・幸福・環境またはそれぞれの生徒の興味関心のある分野について交流

10月ー目的:研究内容に多様な視点を取り入れる

・海外連携校の生徒に事前に課題研究のプレゼンテーションを視聴してもらい、そのトピックやプレゼンテーションの内容について意見交換

国際会議の実施

■ 第一回

ー令和2年12月26日(土)

・場所:府立北野高等学校

・参加生徒:拠点校と国内連携校の生徒113名、日本の大学や拠点校等に在籍する留学生

・講演: “Expected Roles of Individuals and Society in Health and Medical Care and Maturity Attainable by Overcoming the COVID-19 Pandemic”

・テーマによるグループ協議

■ 第二回

ー令和4年1月22日(土)

・場所:オンライン

・参加生徒:拠点校・連携校の2年生生徒71名、海外(インド、インドネシア)の高校生64名

・講演: “Online Distance Learning”

・テーマによるグループ協議 “Should online classes be continued after the pandemic”

事業協働機関等と連携した高度な学びの提供に関する取組み

■ 大学、外部機関との連携による講演や体験プログラムの実施

ー連携大学から講師を招聘し、課題研究に関する講演の実施

ー大学教員や大学院生による課題研究の定期的な入り込みの指導&指導助言を受けるため研究室訪問

■ 外部機関と連携した論理的思考力や英語運用能力の育成

ー一般財団法人パラメンタリーディベート人材育成協会との連携
(拠点校1年生全員が即興型ディベートに取り組む機会の提供)

■ 大学教育の先取り履修の実施に向けた取組み

ー連携校・拠点校の生徒約20名に対し、AL(アドバンスト・ラーニング)クラスの実施

大阪工業大学と協働し、「AIやデータの力を最大限活用し展開できる人材」の育成をめざした高校生向けの特別授業を実施

■ オンラインで高度な学びを提供するためのシステム構築

ーさまざまな分野において研究している大学教授等の高校生向けの講演を録画・編集し、大阪府教育庁のウェブページに掲載する予定。

WWL事業を行ったことによる学校全体への波及効果

- ▶ 探究的な学びへの意識づけにより、平素の授業においても生徒が学習内容や自分の考えをまとめて発表する機会が増えた

本校授業アンケート(4点満点)より

項目:授業で学習内容や自分の考えをまとめたり発表する機会が効果的に設定されている

学年/時期	R1.7	R3.11
1年	3.18	3.43
2年	3.18	3.45
3年	3.23	3.57

- ▶ 留学生がいる環境が当たり前になり、多様性を受け入れる土壌を育むことができた

学校教育自己診断(生徒向けアンケート)より

項目:国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある

肯定的評価—令和元年度:78.1%→令和3年度:88%

他の組織との連携に対する変化・効果

▶ 海外連携校とオンラインで連携を保つことができた

ーコロナ禍で海外連携校を訪問することはできなかったが、オンライン交流を開始できたことで、海外研修で訪問するといった一回限りの交流ではなく、平素の授業等でも交流し、議論する機会を今後も持続可能な形で作ることができる

▶ パーラメンタリーディベート人材育成協会との連携の継続

ー同協会との連携はWWLの取組みの1つとして定着し、今後も連携を継続することとなった。新学習指導要領において、英語でディベート・ディスカッションを行うことができる力はますます求められる。学校だけで取り組みにくい部分に対して+αのサポートを得ることができる

来年度以降の予定

- WWL推進室に代わる新分掌を設置
 - ー学校全体の探究活動・国際交流・英語の取組を統括する“学力向上推進室”を設置し、探究活動のさらなる充実や国際交流の継続を図る
- 海外研修
 - ーオンライン・オフラインによる海外の高校や大学・国際機関との交流を積極的に実施するとともに、カリキュラムに位置付けた海外交流のあり方について研究・実施を継続していく
- 「高度な学びを提供するシステムの構築」に係る取組み（アドバンスト・ラーニング（AL）クラス）の継続
 - ー事業協働機関の大学や研究機関との連携を継続し、ALクラスを実施する
- 3年間のWWL拠点校として実践した取組みを、拠点校・連携校だけでなく他の府立高校へも広げていく